# トップメッセージ

背景はNOVARE Academy ものづくり至誠塾

**「原点回帰による『シミズブランドの確立』」に注力し、**
**サステナブルな社会の実現へ向けて、ステークホルダーの皆様とともに歩みます。**

代表取締役社長
新村達也

## はじめに

2025年4月、清水建設の代表取締役社長に就任しました新村達也（しんむらたつや）です。これまで当社が220年以上にわたり築き上げてきた歴史や伝統を大切にしながら、創業の精神や社是「論語と算盤」の教えを、経営陣と従業員が一体となって体現し、社会の要請に真摯に向き合って挑戦を続け、ステークホルダーの皆様のご期待を超える価値を提供し続けていきたいと考えています。

「失意泰然、得意冷然」―― これは、私が座右の銘とする言葉で、逆境にあっても泰然自若として物事の本質を見極め、順境にあっても奢ることなく平常心を保つ姿勢を表しています。建設業や当社を取り巻く環境は目まぐるしい変化の中にありますが、常にこの姿勢を忘れず、当社の持続的な成長とサステナブルな社会の実現に向けて、経営の舵取りを行っていきます。

## 社長就任にあたっての思い

### 「原点回帰による『シミズブランドの確立』」を新たな経営の出発点として、歴史・伝統・信用を次世代へつないでいきます

社長に就任するにあたり、私は「原点回帰による『シミズブランドの確立』」を新たな経営の出発点と定めました。220年を超える歴史と伝統、そしてお取引先をはじめとする皆様から賜った深いご信頼を、次の世代へと確かに継承していきます。

社長交代に際し、多くのお取引先を訪問し、ご挨拶を重ねる中で、「シミズブランド」への高いご期待と厚い信頼を改めて実感しました。「シミズブランド」とは、単なる名称ではなく、品質・安全・コスト・工程における徹底したこだわりを貫き、誠実なものづくりを通じて築き上げてきた信頼そのものです。

このブランドを守り、さらに洗練させていくためには、いま一度当社の原点に立ち返ることが不可欠と考えています。「原点回帰」とは、創業からの「誠実なものづくり」「進取の精神」、そして「論語と算盤」に象徴される理念を大切にしながら、技術革新の趨勢（すうせい）や社会の価値観の変化を的確に捉え、時代の先を行く価値を創出していく姿勢に他なりません。

「原点回帰による『シミズブランドの確立』」を旗印に、これまで培ってきた歴史・伝統・信用を礎として、より高い信頼と感動をお届けできる企業を目指して邁進していきます。

## 中期経営計画〈2024-2026〉の達成に向けて

### 「経営基盤の強化」を推し進め、グループの持続的成長を揺るぎないものに

当社は、グループ長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」の実行計画として、「中期経営計画〈2024-2026〉」を策定し、その基本方針に「持続的成長に向けた経営基盤の強化」を掲げています。この中期経営計画の第一歩として、初年度となる2024年度を「経営基盤の強化に向けた新たなスタートの年」と位置づけ、全社を挙げて収益力の向上および品質の確保に取り組んできました。

経営基盤の強化においては、第一に「経営の中核である人財と組織力の成長」、第二に「機能連携を通じたサステナビリティ経営の進化」を掲げ、その両輪をもって、戦略実行力の高度化を図っていきます。

当社には、創業以来大切にしてきた価値観や、「論語と算盤」に象徴される理念を体現し、高い専門性を備えつつ、仲間と共に協働して進む精神を有した従業員が多数在籍しています。この貴重な人財の力をさらに引き出すべく、経営戦略と整合する組織体制の再構築や、従業員の経験・スキルの可視化を通じたタレントマネジメントの推進により、人財の最適配置を図ります。併せて、役割と職責に基づいた公正な評価がなされるよう、人事制度の改正に向けた検討も進めています。

一方、機能連携の強化においては、「マーケティング」「技術開発・知的財産」「デジタル」「グローバル化」「サプライチェーン」「グループ経営」の6つの重要機能を横断的に連携させ、全社的な取り組みを推進しています。具体的には、「デジタルゼネコン」への進化とデータドリブン・DXによる事業推進体制の強化、さらには「堅牢なサプライチェーンの構築」など、部門単体では解決困難

## トップメッセージ

な課題に対して部門横断で挑み、企業としての責任と成長機会を両立するサステナビリティ経営の深化を目指しています。

事業戦略の柱である建設事業においては、より高い収益性の確保と、ものづくりの魅力を高める生産体制への再構築を進めています。具体的には、採算性重視の受注判断を徹底するための受注前審査の厳格化、精度の高い施工計画を実現するフロントローディングの推進、そしてコスト競争力の強化などに取り組んでいます。品質・安全・コスト・工程に対する徹底したこだわりを貫き、建設事業の競争力を一層高めていきます。

加えて、不動産開発、エンジニアリング、グリーンエネルギー開発、建物ライフサイクル、フロンティア事業といった非建設分野においても、事業環境の変化を的確に捉えつつ、各事業方針に基づいた重点戦略を確実に遂行し、着実な成長を追求していきます。

グローバル戦略においては、拠点の自立経営を目的とした改革の一環として、2024年度より海外直轄拠点に「カンパニー制」を導入し、実質的な独立運営体制の構築を図っています。さらに、外部成長戦略として、ASEAN諸国および北米を中心に、アライアンスやM&Aによる事業拡大を進めています。その一環として、2024年11月にシンガポールの内装工事会社「Grandwork Interior Pte Ltd」を子会社化、2025年2月には米国の改修・内装工事会社「Cross Management Corp.」をグループ会社化し、現地ニーズに即した市場開拓と事業機会の創出を図っています。

これらの取り組みの成果として、2024年度の業績は、売上高1兆9,443億円（前年同期比3%減）、営業利益710億円（前年同期の営業損失246億円からの大幅改善）、親会社株主に帰属する当期純利益660億円（前年同期比285%増）となりました。上場以来初の営業赤字となった一昨年度からの大幅な回復は、工事採算の改善などによるものであり、着実な経営基盤強化の成果と受け止めています。とはいえ、依然として回復の途上にあるとの認識のもと、引き続き事業戦略の着実な実行と業績改善に全力を尽くしていきます。

また、持続的成長に向けた戦略的投資として、3年間で総額3,600億円を計画しており、2024年度の投資実績は約700億円、進捗率は約20%となりました。今後も事業環境の変化を注視しながら、企業価値向上に資する投資を、時機を捉えて着実に遂行していきます。

社内においては、中期経営計画の進捗状況に関し、経営幹部が全従業員を対象に説明・対話会を実施しています。このような機会を通じて、日々の業務における課題や気づき、改善提案などを率直に共有し、中期経営計画の取り組みを全従業員が「自分ごと」として捉え、行動につなげていくことを目指しています。

中期経営計画は単なる方針ではなく、当社の未来を形作るための羅針盤です。その実効性を高めるためにも、組織全体として対話と改善を重ねつつ、確固たる経営基盤のもとで、持続可能な成長の実現に邁進していきます。

## 持続的な成長に向けて

### お客様の期待や想像を超える発想や取り組みにより、イノベーションを実現していきます

シミズグループは、2030年に目指す姿として「スマートイノベーションカンパニー」を掲げ、建設業の枠組みを超えた価値創造を通じて、人々が豊かさと幸福を実感できる持続可能な未来社会の実現を目指し、不断の変革と挑戦を続けています。

現在、建設物価の上昇傾向が続く中、東京および地方都市において、大型開発案件の計画が相次いでいます。また、異常気象や気候変動の影響による自然災害の激甚化への備え、老朽化する社会インフラの更新・強靭化に対する需要も、今後本格的に拡大していくと見込まれます。海外経済の先行きに不透明感が残る一方、建設市場全体としては堅調な推移が予想される状況にあります。

しかしながら、2030年以降を見据えれば、国内市場は人口減少に伴い縮小の一途をたどることは避けられません。スクラップ&ビルドに依存した従来型のモデルから、既存ストックの再活用を軸としたリニューアル・リノベーション案件の増加など、社会やお客様の要請に応じた新たなビジネスモデルへの転換が求められる局面に差し掛かっていくことが予想されます。当社といたしましては、国や自治体が描く長期的なグランドデザインも踏まえつつ、将来に向けた経営環境の変化を的確に見極め、柔軟かつ機動的に対応していく所存です。

このような時代の転換点において、当社が社会から選ばれ続ける企業であり得るか否かは、お客様や社会の期待を超える価値をいかに創出・提供できるかにかかっています。建設業は受注産業であるという本質を踏まえながらも、私たちは、「超建設」のマインドセット（▶P.19）を胸に、従来の延長線上ではない発想と取り組みによって真のイノベーションを実現し、主体的に市場へ働きかけていく姿勢を重視しています。

その具体的な取り組みの一例として、当社は2021年度より、独自の土壌洗浄技術を応用した有機フッ素化合物（PFAS）の除染技術開発を進めてきました。2024年6月には、米国で採取された実汚染土壌に対する室内試験において、PFAS含有量の約99%を除去することに成功しました。今後は、米国内に小規模プラントを構築し、実プラント規模での技術実証を推進していきます。

また、2022年10月に完成した、世界最大級の搭載能力およびクレーン性能を有する自航式SEP船「BLUE WIND」は、2023年度以降、複数の洋上風車建設工事に携わり、傭船案件も含めた豊富な実績を積み重ねています。今後も、国内外の洋上風力発電事業における中核的なリソースとして、当船の有効活用を図っていきます。

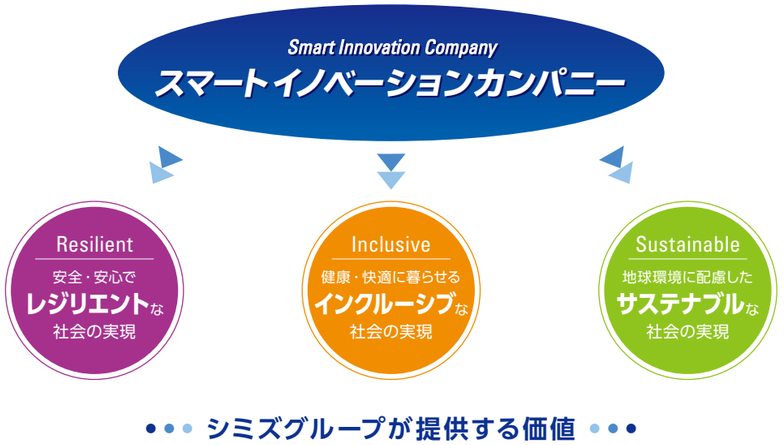
## トップメッセージ

さらに、2025年3月には社内において「超建設フォーラム」が開催され、国内外の従業員による、社会やお客様の本質的なニーズ・課題への挑戦をテーマとした先進的な取り組みが数多く発表されました。これに加え、次世代の創新を育む新たなプラットフォームとして整備した「温故創新の森 NOVARE」も積極的に活用され、全社的にイノベーションへの意識が高まりを見せています。

私たちは今後も、このような「超建設」のマインドセットを全社に広く浸透させ、より多くの従業員が創造性を発揮し、社会に新たな価値をもたらす起点となるよう、仕掛けづくりや働きかけを一層強化していきます。

シミズグループは、変化の時代にあっても、決して現状に甘んじることなく、お客様と社会の未来を見据え、想像を超える創造で新たな価値を切り拓き、持続的な成長の実現に向けて邁進していきます。

### SHIMZ VISION 2030




SHIMZ VISION 2030
https://www.shimz.co.jp/company/about/strategy/pdf/shimzvision2030.pdf

## ステークホルダーの皆様へ

**シミズクループは皆様との対話と協働を重んじながら、
企業価値の向上と建設業界の発展、
そして持続可能でより良い未来の創造を目指していきます**

現在、当社のPBR（株価純資産倍率）は1倍を上回り、時価総額も1兆円を超える水準で推移していますが、この状況に決して安住することなく、企業価値のさらなる向上に向けて不断の努力を重ねていきます。

中長期的にはROE（自己資本利益率）10%以上の達成を目標に掲げ、建設事業の収益力強化に加え、政策保有株式の積極的な縮減をはじめとする資本効率の改善に注力していきます。また、こうした取り組みが市場から正しく評価されるよう、IR活動をはじめとしたステークホルダーの皆様との継続的な対話に力を尽くし、株主還元の確実な実行にも努めていきます。

加えて、今後は具体的な成果のみならず、当社が描く将来構想や挑戦の過程においても、様々な場面を通じて積極的に情報を発信していく必要があると考えています。私自身、トップセールスマンとして、社内外に向けた適切なメッセージの発信に努め、現場へも自ら足を運び、信頼と理解を築いていきます。

また、建設業界全体の持続可能な成長に向けて、次世代の担い手の確保と育成にも注力しています。「兼喜会」をはじめとする協力会社の皆様とのパートナーシップの深化に加え、大学・高校との産学連携による教育支援などを通じて、より多くの若者が建設の道を志す環境づくりを推進しています。

子どもが砂場で山を作ったり、積み木を積んで塔を作ったりして遊ぶように、「ものづくり」の楽しさは人間の本能に根ざした喜びであり、その魅力に満ちた建設業界の姿を、次世代や社会へ正しく、熱意を持って伝えていきたいと考えています。また、深刻化する技能労働者の減少に対しては、外国人建設技能者の受け入れと活躍の場の拡充にも、業界を牽引する立場として真摯に取り組んでいきます。

私たちは、「子どもたちに誇れるしごと」を実現するという信念のもと、全従業員が誇りと使命感を持って働き、お客様や社会に真に必要とされる企業であり続けたいと願っています。今後とも、すべてのステークホルダーの皆様との対話と協働を大切にしながら、未来を見据えた挑戦を続けていきます。

今後も変わらぬご支援とご高配を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。